

令和5年度第4回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会

令和5年10月31日（火）

【藤井（保健医療課課長）】 皆さん、こんにちは。

定刻になりましたので、ただいまから令和5年度第4回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を開催いたします。

皆様には、お忙しい中、御出席いただきまして、ありがとうございます。

なお、本日は西村委員が御欠席ということで御報告いたします。それでは、座って失礼します。

会議に入ります前に資料の確認をさせていただきます。

まず、令和5年度第4回桑名市総合医療センター評価委員会次第、次に資料1、第4期中期目標（案）、次に資料2、中期目標現行と案の対照表、資料3、第3期中期目標、次に資料4、第3期中期計画、次に資料5といたしまして、先日、御意見いただきました中期目標見込みの評価に対する意見、そして、席次表でございます。資料のほう、よろしかったでしょうか。

それでは、本日の議事進行について御説明させていただきます。

本日は、第4期中期目標（案）につきまして、委員の皆様にご意見をいただきたいと思っております。

地方独立行政法人の中期目標につきましては、地方独立行政法人法第25条において、設立団体の長が定め、法人に指示し、公表することとなっておりますが、あらかじめ評価委員会の意見を聞くとともに議会の議決を得なければならないとなっておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、早速本日の議事に入りたいと思います。

豊田委員長、会議の進行をお願いいたします。

【豊田委員長】 それでは、早速ですけれども、本日の議事に入りたいと思います。

それでは、事務局から説明をお願いします。

【藤井（保健医療課課長）】 お願いします。

まずですが、説明に入ります前に、この中期目標（案）につきましては、前回評価委員会で委員の皆様よりいただきました御意見を踏まえての内容となっておりますということ

と、夏の評価委員会のときに総務省が設立団体に公立病院経営強化プランの策定を求めていて、本年度作成する予定となっているため、その案にも意見をいただくという形でお話をさせていただいていたんですけども、地方独立行政法人の場合は、プランの内容をこの次に総合医療センターさんで作成していただく中期計画に兼ねることができるということでございましたので、そのように医療センターさんに了解をいただいております。

また、経営強化プランによって、総合医療センターの目的というものが変わるものではないと考えておりますので、今回御審議いただく中期目標では、前回の中期目標で目指す方向性は継続したというような状態で、経営強化プランの内容に沿った中期計画の策定をお願いしていくことができるように一部項目の整理をした内容としております。よろしくお願いいたします。

それでは、第4期中期目標（案）の説明をいたしますので、資料1と資料2をお手元をお願いいたします。

説明は資料1に基づいてさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず前文なんですけど、こちらは読み上げをさせていただきます。

地方独立行政法人桑名市総合医療センターは、平成30年4月に地域の二次医療及び急性期医療を担う新病院を開院し、最良の医療を提供し、地域の皆様から信頼され必要とされる病院を目指すという基本理念の下、地域医療の確保と医療サービスの充実に努めている。

第3期中期目標期間においては、本市の求める高度で専門的な医療機能を発揮するとともに、地域医療機関等との機能分担による地域医療連携の基盤を築いてきた。

また、新型コロナウイルス感染症の対応においても、重点医療機関として感染拡大に伴う感染症患者の受入れや医療の提供に貢献し、主導的な役割を果たしてきた。

近年は、少子高齢化による急激な人口構造の変化に伴い、医療ニーズが高まる一方、それを支える医療従事者の不足や過重労働が懸念されている。

そのため、第4期中期目標期間においては、デジタルトランスフォーメーションによる医療水準のさらなる向上と業務の効率化・最適化を図るとともに、安定した経営基盤の確立や働き方改革の推進により、将来にわたり持続可能な医療提供を行い、地域住民の安全安心に貢献することを期待するとしております。

次に、大項目の第1、中期目標の期間につきましては、令和6年4月1日から令和11年3月31日までの5年間としております。

次に、第2、住民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項に関しましては、まず1、医療の提供では、公的病院としてのあるべき姿を認識し、地域住民の安全安心を第一に考え業務に取り組み、求められる責務を果たすこととしております。

小項目の1、重点的に取り組む医療といたしましては、第3期に引き続き高度医療、急性期医療、救急医療に、また疾患の分野別では、がん、脳血管障害、循環器疾患及び消化器疾患の分野における医療について、率先的かつ重点的に取り組むこととしております。

また、救急医療を含めた小児医療の提供についても重点的に取り組むとしており、周産期医療の提供に関しましては、地域周産期母子医療センターの指定に向けて取り組むことを今回追加しております。

次に、小項目2、地域医療連携の推進といたしましては、3期に引き続き地域包括ケアシステムの構築に向けて、ほかの医療機関と機能分担や連携を推進し、患者が退院後も切れ目のないケアを受けられるよう関係機関と協力することや地域の在宅医療を含む医療、福祉及び介護の連携体制の構築に貢献することとしております。

次に、小項目3、災害時及び重大な感染症の流行時などにおける医療協力といたしましては、地域災害拠点病院として、事業継続計画の適切な運用の下、平時から緊張感を持って関係機関との連携を図り、連絡体制の確保や医療物資等の備蓄、訓練等を行うこととし、また、災害発生時には県及び市からの要請に基づいた患者の受入れや治療の実施、医療チームの派遣などによる医療の提供を行い、その他災害対応についても積極的に取り組むこと。併せて、新興感染症等の流行時には、これまでの経験に基づいた迅速な対応を取り、地域住民の安全安心のために主体的に行動することとしております。

次に、中項目の2、医療水準の向上、小項目の1、高度・専門医療への取組では、3期に引き続き高度で専門的な医療提供体制の充実に取り組むことと、診療体制の強化と充実に図ることとしております。

次に、小項目の2、デジタルトランスフォーメーションの推進ですが、第4期の目標から追加する内容となります。質の高い医療サービスの提供と業務効率化、最適化を図るため、関係機関と連携し、デジタルトランスフォーメーションを推進することとしております。

次に、中項目の3、医療従事者の確保は、第4期の案で新たに追加した中項目になります。3期までは医師の研修医確保と看護師の確保が別の中項目にありましたが、ここへ整理しております。

小項目の1、医師の確保では、医療水準を向上させるため、必要に応じ計画的な確保を行うこととしております。

次に、小項目の2、研修医の受入れ、育成では、第3期に引き続き臨床研修病院として臨床研修医を受け入れ、専攻医を確保し、充実した研修体制を整えることにより優れた医師の育成を行うとともに、総合医療センターへの定着を図ることとしております。

次に、小項目3、看護師の確保及び定着では、質の高い看護が継続的に提供できるよう看護師の確保及び定着を図ることとしております。

次に、中項目の4、患者サービスの一層の向上では、第3期に引き続き患者や家族との信頼関係の構築に努め、患者サービスの一層の向上に取り組むこととしております。

次に、中項目5、安心して信頼できる質の高い医療の提供、小項目1、医療安全対策の徹底では、第3期に引き続き患者が安心して受診できる環境を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故などに関する情報の収集、分析に努め、医療安全対策を徹底することとしております。

次に、小項目2、信頼される医療の提供では、第3期に引き続きインフォームド・コンセントの徹底やセカンドオピニオンの提供、個人情報の保護、適切な情報開示等を通して、患者、その家族及び地域住民に信頼される医療を提供することとしております。

次に、小項目3、施設設備の整備及び更新では、第3期に引き続き施設設備については、必要性、費用対効果等を勘案しつつ、計画的に整備、更新することとしております。

次に、小項目4、市民への情報発信や普及啓発等の広報活動の充実では、市民に対する情報発信や普及啓発等の広報活動を充実させることとしております。

次に、大項目第3、業務運営の改善及び効率化に関する事項です。

中項目1、規律ある職場づくりは、新たに追加した項目となっております。ここでは、法令遵守を徹底し、規律ある職場づくりに努めること。また、職員は、自己の職

責を理解し、その職責を果たすよう努めることとしております。

次に、中項目 2、適切かつ弾力的な人員配置では、第 3 期に引き続き高度な専門知識と技術に支えられた安全で質の高い医療を提供しつつ、業務運営の効率化のため、職員の経験や能力を反映させた適切かつ弾力的な人員配置を行うこととしております。

次に、中項目 3、職員の職務能力の向上では、職員の努力や実績が適切に評価され、その能力を最大限発揮できる仕組みを推進し、職務能力の向上を図ることとしております。

次に、中項目 4、職員の就労環境の整備では、働き方改革を適切に実施し、就労意欲の向上や満足感が得られる働きやすい職場環境の整備を行うこととしております。

次に、中項目 5、効率的な業務体制の推進と改善。こちらでは、組織力の向上に向けて職員が業務運営の方向性を理解し、継続的に業務改善に取り組む組織風土を醸成すること。情報通信技術等も積極的に活用し、組織内の情報共有や相互連携を迅速に行い効率的な業務の執行に当たること。また、病院機能評価などの外部評価についても業務改善につながるよう努めることとしております。

続きまして、大項目第 4、財務内容の改善に関する事項でございます。こちらについても第 4 期目標から 3 つの小項目としております。

まず、中項目 1、持続可能な経営基盤の確立では、継続的な業務改善や予算計画の見直しにより財務内容の改善、持続可能な経営基盤の確立を図り、公的な病院としての使命を果たすこととしております。

次に、収入の確保では積極的な患者受入れや効率的な病床利用を行い、収入の確保に取り組むこととしております。

次に、中項目 3、支出の節減では、コストに対する意識の強化と業務の効率化に努め、経費削減を図ることとしております。

続いて、大項目の第 5、その他業務運営に関する重要事項でございます。

中項目の 1、地域の医療水準向上への貢献では、第 3 期に引き続きほかの臨床研修病院の研修協力病院として、その病院の臨床研修医を受け入れるほか、看護学生及び薬学生等の実習の受入れを積極的に行い、地域における医療従事者の教育に努めることのほか、消防本部からの救急救命士の実習受入れ、育成等を通して、相互の信頼関係の構築に努めることとしております。

以上が第 4 期中期目標の案の説明でございます。よろしくお願いたします。

【豊田委員長】 ありがとうございました。

前回の評価委員会での委員の皆さんのいただいた御意見も受けて、第4期中期目標の案をおつくりになったということではありますが、いかがでしょうか。

御意見、遠慮なくどんどんおっしゃっていただければと思いますが。

例えば医療従事者の確保で、医師の確保、研修医の受入れ及び育成、看護師の確保及び定着と書いてあるんですけど、これは3つとも大事なことです、それ以外の医療従事者の確保については、今のところ困っていないということかな。

どうぞ。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 医療センターの中村です。

基本的には、売手市場と買手市場のところははっきりしてしまっていて、今、実は一番取れないのは事務職員、本当に取れなくて、今年も大卒が何人か合格するけど、皆、辞退をされてくるので、派遣とかに頼っているんですけども、医師は大学のほうから安定的に派遣していただきますし、看護師は、定数をそんなにがちがちに定めておりませんので、割とプラスで回っておりますし、それ以外のコメディカルのところは、割と取りやすいところになっていますので、今課題は、個人的には事務だなというふうに思っていますので、もう少し策を考えようかと思っています。

【豊田委員長】 どうですか。医療従事者の確保、このままでいいかな。あるいは何とか等の確保にするのか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 事務は、来年から高卒のところを、一回、高校を回ってお願いしていこうかと思ったりしていますので、ここであえて書いていただかなくてもある程度めどは立つんじゃないかと思っていますんですけども、あとは薬剤師ですね。これも全国的な傾向があると思うんですけども、給与も少し見直しをかけつつ、働きやすい環境をつくらないとなかなか確保できないかなと。

竹田先生も県内全域で取り組んでみえますので、竹田先生、お願いしていいですか。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 三重県薬剤師何とか協会というのがありますわね。そこの今年度の一番大きな目標は、病院薬剤師の確保なんですね。それで、私もオブザーバーとして参加させていただいて、とにかく三重県は病院薬剤師が少ない、全国的に見ても。それから、薬局の薬剤師も少ないんですけども、まだ病院薬剤師よりは多いと。結局、何が一番大事かという、給与が違うという。月に10万違うそうですね、病院薬剤師と薬局の薬剤師と。それを鈴鹿医療科学大学の薬学部の先生も委員に入ってみ

えて、学生に聞くと、病院の薬剤師は物すごく忙しいと。大変忙しくて、業務が複雑で、しかも給与が安いと。学生にみんな聞いても、誰が病院へ行きますかと、こう言われると。だから、根本的に変えないと、これは絶対病院薬剤師は増えないと、今、それで県とも話して対策を取っておるんです。学生時代から奨学金を出しても、奨学金をもらっても、最初は病院に勤めたとしても、返し終わったらすぐ辞めていくとか、あるいは薬局のほうへ勤めて、早く稼いでぱっと返すとか、みんな、そんなふうにしてやっているということですから、本当にこれは根本的に変えないと、三重県でも南のほうは本当に薬剤師がゼロという病院も出てきています。ですから、これは本当に真剣に考えないといけないということです。そういうふうな状況です。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

この辺の目標の文言をちょっと変えたほうがいいのかもかもしれませんね。何らかの形で、看護師等、「等」をつけるか、薬剤師と明確に書いたらいいかもしれませんし、ちょっと変更したほうがいいのかなど。

ほかに、委員の皆様方から何かございませんでしょうか。

1 ページ目の医療の提供のところの重点的に取り組むべき医療で、救急医療を含めた小児医療の提供というところで、非常に大事なことであるわけですが、この文言は若干分かりにくい部分もあって、救急医療を含めた小児医療の提供ということは、小児救急ということを示しているのか、救急医療と小児医療というのを指しているのか、どちらなのでしょう。

【藤井（保健医療課課長）】 市の考えといたしましては、地域の課題として、小児医療というところが一番大きいと考えておりますので、それがメインなんです。小児医療の中でも特に小児の救急というところを重点的に医療センターさんをお願いしたいという思いの一文になります。

【豊田委員長】 だから、小児医療の一部として小児救急というふうな意味でここに書かれているということですね。

【伊佐地委員】 その下にある周産期のことで、地域周産期母子医療センターというのは、その指定には条件とかあって、今の状況はどうかと、その辺りは分かるんですか。5年ぐらいの間にセンターの指定が受けられるかどうかと。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 今、順調にステップを踏んでいまして、問題だったのは、手術場の急な出産というか帝王切開というか、そういうところが問題点

だったんですけども、そのところは最優先ということで、手術場部長と話がつきまして対応できましたので、あと、ほぼ当直問題も何とかなつたと聞いておるので、来年度には。

【伊佐地委員】 手術なんか、点数とかありますよね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 点数管理料も上がると思うんですけど、県の補助金とかも頂けるのがあると思いますけれども、来年度にはもう手が届くところに来ているというふうにお聞きしています。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 点数はほとんど影響はないですよ。

【伊佐地委員】 救命加算とか、そればかりじゃないですけど、救急センターを含めてやっておるとすごく上がりますよね。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 救命救急ではないので、特に加算はないです。

【伊佐地委員】 だけれども、あるとないのではモチベーションが違いますね。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 冠だけです。

【伊佐地委員】 分かりました。

【伊佐地委員】 あと、財務内容のところ、この間のところでも少し、第4の財務内容の改善というのは、もうちょっと何となくパンチがあると、もうちょっと何となく、さらっと書いているんですけど、何となく具体的に収入の確保と書いてあるので、具体的には今、どういうところが弱くて、どういうところを強調すべきとか、そういうところがないですかね。その辺りを書いていただけると。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 大体の先生は御存じだと思うんですけども、急性期病院って本当にお金はもうからない病院ですので、恐らく売上げ、医業収益に対して3%から5%の利益が出ればいいというような状況だと思うんですけど、一番困っているのは、ここであまり言いにくいけど、市からの支援が薄いということが一番薄いので、どちらかという、市が書く中期目標なので、市のほうでそっちは書いていただけないかなと私は個人的に思っているんですが、いかがでしょうか。

【豊田委員長】 そうですね、あくまでこれは市が独立行政法人に求める目標なので、市の目標は市が勝手につくるわけですので、これは病院側に求めている目標ということで御理解をいただきたいと思います。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 ちょっと意地悪を言って申し訳ないです。

【豊田委員長】 それで、ここでもうちょっと御紹介しましょうかね。今、伊佐地委員から、財務的なことについてのお話がありましたが、本日、御欠席の西村委員から御意見をいただいております。

西村委員からは、第4期中期目標の案については異論はないということですが、なお、先生方から、前回の会議で御意見があったように、病床稼働率、給与費対医業収益比率などの次期中期計画における具体的な計画値については、前回会議の内容を考慮して設定する必要があると思っております。よろしく願いますという御意見でありまして、これは中期目標じゃなくて、中期計画を病院で語っていただく上で、そういう数値目標を明確に書いてくださいという御意見でございます。前回、財務的なことではいろいろと御質疑は皆さんからありましたので、そういう御意見をいただいております。

【伊佐地委員】 あと、ちょっと気になったことは、DXの推進の場所が医療水準の向上のどこに書いたらいいのかなという、全てに関係しますよね、これ。DXを進めたら医療水準が上がるかという、直接イコールではないと思うんですよね。いろんなところに関係するので、医療水準の向上の中に入っているのが。

【豊田委員長】 その辺、僕も読ませていただいて、非常に苦勞されておつくりになっているのかなというふうに思いました。非常に悩ましいところですよ、伊佐地先生がおっしゃいましたように。

【伊佐地委員】 全てに関係します。

【豊田委員長】 全てに関係して、また、デジタルトランスフォーメーションというのはあくまで手段であって、目的そのものではないので、医療水準にも関係するわけですけど、医療水準を向上させることが目的で、デジタルトランスフォーメーションは手段なんですよね。そのほか、医療そのものではなくて、経営とか事務系のことにも関係してきまして、ただ、業務の効率化というところではデジタルトランスフォーメーションということとは使わずに、ICTと使っているということで、物すごく苦勞されてつくられているのかなと思って、じゃ、どういうふうに書けばいいのかと言われると、なかなか難しい。

【伊佐地委員】 どこに入るのかは難しいなど。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 具体的には、自分もどこか分からないんですけど、画像系と事務系に2つの分野に分かれています。

【豊田委員長】 画像系と事務系。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 画像系は、胸部レントゲンと内視鏡の画

像の診断。

【伊佐地委員】 AIですかね。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 AI関係のそういったものと、あと、ダビランチの画像を大学と双方向性にして教育に役立てると。その3点が画像でして、事務系のほうは残りという、アプリケーションを使って、例えば具体的にもう始まっているんですけど、支払いのところ、診療が終わったらすぐうちへ帰っていいよと。お金を払うのはカードで登録しておいてもらえれば待つ必要はありませんというのは、後払いというんですか、支払いを待たずに。

【伊佐地委員】 後払いと、何と言ったらいいんですか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 後払いシステムです。

【伊佐地委員】 後払い制度ですよ。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 大体そういう、自分は、画像と事務と分けて考えて。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 どう表現していいか、僕も分からないんですけれども。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 患者さんの利便性のところはすごく強いですから。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 患者サービスですよ。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 今回の中期目標については、DXと働き方改革は大きな2本の柱に据えているので、そこをどうやって書き込むかというのは、実は事前に相談を受けていたんですけど、なかなかどこへ、どう書くというのが浮かばなくて。

【豊田委員長】 なかなか難しい。これぐらいでいいのかなと思いますけど。

【伊佐地委員】 あともう一つ、セカンドオピニオンの提供って、今、もう既にされているんですか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 これは、機能評価でかなり徹底して修正するように言われまして、ホームページにもうちょっとちゃんと記載しろという指導がありました。

【伊佐地委員】 なかなか医師でやってくれる人はいないんじゃないですか、そんなことはないですか。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 そんなことはないです。

【伊佐地委員】 やっています？僕は大学であまりやっていなかったののでやっていたけど。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 大学は受けが多いと思うんですけど、出しはうちのほうですから。

【豊田委員長】 どうでしょうか。何か。

【永藤委員】 特に目標についてはないんですけども、先ほど出ていたDX、働き方改革については、この文章だけを読むと、あまり抽象的過ぎて何をやるのかというのが分からないので、計画についてもっと詳しく書いて、どういうことかというのを言うただけだと助かります。先ほどから出ている収入の確保、支出の節減ですけども、これについてももう少し詳しく計画に入れていただければいいなと思います。

【豊田委員長】 森下委員、何かございますか。

【森下委員】 それぞれ各委員が御指摘いただいたようなことかなと思う。特に私もデジタルトランスフォーメーションの記載はここかなというのが、医療水準のというのは思いましたけど、確かに。全体的には、サービス水準を上げるためにデジタルトランスフォーメーションを使うのでという感じだと思うんですけど、ここところがちょっと気になりましたね。

あと、収入の財源のところについては、さらっと触れ過ぎているのかなと。いろいろ御苦労されているのは分かりますけど、もうちょっとこのところを重点的にやろうかというのは、例示的な表示があってもよろしいのかなという気はします。

あと、第3の業務運営の改善と書いてあるんですけど、1、2、3というのもさらっと書いてあるだけで、何が改善したいのかなと、そのとおりですよということしか書いていない。

5番のところをやっと出てくるとは思いますけど、効率化に関しても、何を効率化されているのか、ちょっと分かりづらいかと思います。その辺りDXの兼ね合いもあるので、非常に難しいですね。どこで入れていいかというのは。

【豊田委員長】 もうちょっと具体的に事例を挙げたりもしてという御指摘ですね。具体的なことは計画で出てくるとは思うんですけど、目標においてももう少し具体的に記載したほうがいいのではないかという御意見です。

DXについては、病院の場合は、医療そのもののDXも大いにあるので、業務の効率化の

ところのDXも両方あるんですよ。

ほか、何かお気づきの点とか、ございませんでしょうか。

では、第5のところでは学生さんの実習の受入れに努めることと書いてあるのは、医療系大学の学長としては非常にありがたいです。

いかがでしょうか、大体こんなことですかね。

【伊佐地委員】 電子カルテは、今度、更新とかはないんですか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 あります。2025年に。

【伊佐地委員】 機種によって、私も今、3つの病院に行っているもので、使いやすさがどうなのかなというの、電子カルテのソフトによっては、かえって医者にとってはすごい負担になっているんですよ。だから、その辺りはどうなのかなと。皆さん、御意見どうなんですか。時々改善は、皆さんも実際に使っている人たちの意見を聞いて、改善とかはされているんですか。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 一番大きなのはベンダーの違いになります。市は、一番は富士通さんが多いので、国のパソコンも皆さん、富士通を使ってみえるので、富士通のが基本的にいいんじゃないかというふうな意見をたくさんいただくんですけど、コスト面を考えると、私も今、NEC系のものを使っているんですが、機能的には劣るのかもしれないんですけど、今、富士通さんに載せ変えるというだけの体力も時間もないので、このままもう一回、NEC系さんで継続していこうというふうに。

【伊佐地委員】 ベンダーによって、使用者の意見を変えて、ソフトのあれとか、うまく変えていただいたらどうかというを。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 今回はソフトを、今のソフトからどれぐらいソフトを変えていってバージョンアップしていくかという聞き取りをしまして、その費用で大体2億円ぐらい出てきているんですけど、大きな新車の買い替えみたいなものですので、今ここでしかつけられないものは極力つけていこうかというふうに考えています。

【伊佐地委員】 あと、病院によって、医師事務補助者がいるかどうかと、大学病院でもいろんな病院を経験していても松阪市民病院が一番いいんですよ、必ず事務補助者がついているので。CTをオーダーしておいて、検査出しておいて、次の予約出しておいて、それで終わるんですよ。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 それは恵まれ過ぎだと思います。

【伊佐地委員】 普通は、大学では全部それ、僕一人でやっているのかな。先生もしているでしょう。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 ちゃんと月番を外来についていただいていまして、それは看護師さんか事務方か。

【伊佐地委員】 そこはちゃんと充実されておるんですね。

【豊田委員長】そこはちょっと分からんけど、譲れないところだと言って、僕は診療部の代表として主張しているところをお願いしています。

【中村（桑名市総合医療センター理事）】 基本的にはつけています。

【伊佐地委員】 これ、働き方改革大きいです。

【竹田（桑名市総合医療センター理事長）】 先ほどの電子カルテの問題ですけど、ベンダーによって全然違うということは、亀田病院の前の理事長は、亀田信介さんは、それをとにかく規格を統一するというので、厚労省のプロジェクトでかなりやっているみたいです。それをやらないと、日本の医療は完全に潰れると、外国に負けてしまうと。だから、これをやらないと、ベンダーが違って、それで全然送ることができないというのは絶対おかしいですからね。だから、それをやろうとしている動きもあるみたいですよ。

【伊佐地委員】 それこそDXですよ。

【登内（桑名市総合医療センター病院長）】 ファイアーという規格が統一されてくるのがもう少し先ですので、それが統一されると、ベンダーが違っててもデータのやり取りはできるようになるというふうに私どもは聞いていますので、これが2025年に対応できるかどうかは微妙なところで、その次の更新になるかもしれないですが、確実にそっちを向いては行くと思います。

【豊田委員長】 そうなんですよ。中期目標から脱線するかもしれませんが、電子カルテとともに三重県が三重大学が一生懸命やった統合型の医療情報データベース、あれは新しい情報を入れられないという決定が三重県からなされたので、結局はあのデータベースを維持できない。

【伊佐地委員】 三重ビッグというやつでしょう。あれは維持するのが大変なんですよ。

【豊田委員長】 データベースをつくるのももうやめているんだけど。

【伊佐地委員】 やっていないですよ。もう維持できないですよ。

【豊田委員長】 入れていないんですわ、新しいデータを。結局、鳴り物入りで、最初構築するときは予算をいただいてつくって、三重大学と幾つかの関連病院でデータを全部

放り込んでということで、すばらしい絵を描いたわけですけど、最初。ところが、そのデータベースは維持できるお金がないということで、行き詰ってしまったという、非常に情けないけど残念なことなんですよ。

ちょっと脱線しましたけど。

ほか、どうでしょうか。

こんなものかな。よろしいでしょうか。

じゃ、幾つかの意見をいただきましたので、修正できるところは若干の修正をさせていただこうと思うんですが、その辺ところは議長に一任をお願いしたいと思いますので、事務局と相談させていただきまして、あまり思い切った修正とか大幅な修正はできないと思いますが、若干の文言の修正になるのかなと思います、それで皆様にもまた見ていただきまして、その上で決めさせていただきたいと、そのように思いますが、そういうことでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

次に、議題はその他となっていますが、何かございますでしょうか。

【藤井（保健医療課課長）】 事務局からは特にございません。

【豊田委員長】 特にない。

委員の皆様方から、特にございませんでしょうか。

では、ないようですので、これで本日の議事を終了いたします。

あとは事務局でお願いします。

【藤井（保健医療課課長）】 ありがとうございます。

本日は御議論いただきまして、誠にありがとうございます。また、委員の皆様には、貴重な御意見、ありがとうございました。

この第4期中期目標（案）でございますが、12月に開会されます桑名市議会の第4回の定例会に議案として提出いたしまして、議決を得ますと、市長が定めることとなります。その後、この中期目標に沿って、医療センターさんに中期計画のほうをつくっていただくこととなります。

今後の評価委員会のスケジュールでございますが、第4期中期計画のものは案に対する意見をお聞きするために、来年、年が明けまして1月9日から19日にかけて、また日程調整をさせていただきまして決めていきたいと思っておりますので、お忙しいところ恐縮ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和5年度第4回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を終了いたします。本日はありがとうございました。

— 了 —